

各位

平成 14年 9月 5日

会社名 三井化学株式会社
 コード番号 4183
 問合せ先 総務部部長補佐
 川田礼三
 TEL (03) 3592 - 4105

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 14年 5月 20日の決算発表時に公表した業績予想を下記のとおり修正します。

記

1. 15年 3月期連結業績予想数値の修正

(1) 中間期(平成 14年 4月 1日 ~ 平成 14年 9月 30日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成 14年 5月 20日 発表)	500,000	16,000	11,000	8,000
今回修正予想(B)	490,000	18,000	14,000	12,000
増減額(B-A)	△ 10,000	2,000	3,000	4,000
増減率	△ 2.0%	12.5%	27.3%	50.0%
前期(平成13年 9月中間期)実績	485,586	12,876	10,348	2,776

(2) 通期(平成 14年 4月 1日 ~ 平成 15年 3月 31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成 14年 5月 20日 発表)	1,040,000	58,000	51,000	26,000
今回修正予想(B)	1,020,000	58,000	51,000	26,000
増減額(B-A)	△ 20,000	0	0	0
増減率	△ 1.9%	0.0%	0.0%	0.0%
前期(平成14年 3月期)実績	952,680	42,382	37,394	7,651

2. 15年 3月期単独業績予想数値の修正

(1) 中間期(平成 14年 4月 1日 ~ 平成 14年 9月 30日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成 14年 5月 20日 発表)	320,000	8,000	6,000	6,000
今回修正予想(B)	330,000	9,000	8,000	8,000
増減額(B-A)	10,000	1,000	2,000	2,000
増減率	3.1%	12.5%	33.3%	33.3%
前期(平成13年 9月中間期)実績	306,264	6,839	6,312	8,314

(2)通期(平成 14年 4月 1日 ~ 平成 15年 3月 31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成 14年 5月 20日 発表)	680,000	32,000	28,000	13,000
今回修正予想(B)	670,000	32,000	28,000	13,000
増減額(B-A)	△ 10,000	0	0	0
増減率	△ 1.5%	0.0%	0.0%	0.0%
前期(平成14年 3月期)実績	595,845	26,165	25,270	8,645

3. 理 由

(連結業績予想)

前回発表予想数値(平成 14年 5月 20日 発表)に対し、中間期の営業利益及び経常利益は、主に基礎化学品及び機能化学品事業の業績の寄与により、それぞれ12.5%、27.3%の増益、当期純利益につきましては、資産圧縮に伴う株式売却による特別利益の増加もあり50.0%の増益を見込んでおります。

(株式売却益は、当初見込み額60億円が110億円になる見込みです。)

通期業績につきましては、ほぼ前回発表予想の損益水準に落ち着く見込みです。

なお、売上高・営業利益・経常利益の状況につきましては以下のとおりです。

[売上高]

国産ナフサ価格につきましては、前回発表予想では24,500円/kgを前提としていましたが、今回修正予想では上期22,700円/kg、下期23,000円/kgを見込んでおります。

そのため、主に石油化学及び基礎化学品事業において、中間期、通期ともに、小幅な減収の見込みです。

[営業利益・経常利益]

中間期は、石油化学事業においてポリオレフィンの交易条件改善の計画未達による減益要因があるものの、基礎化学品事業における合繊原料の交易条件の改善並びに機能化学品事業における電子情報材料及び精密化学品の販売数量拡大等により、増益を見込んでおります。

下期は、主に基礎化学品及び機能樹脂事業の事業環境を見直した結果減益を見込んでおり、通期ではほぼ前回発表予想の損益水準に落ち着く見込みです。

(単独業績予想)

中間期の損益状況につきましては、基礎化学品事業を中心とした営業利益の増加、受取配当金を中心とした営業外収益の増加、資産圧縮に伴う株式売却による特別利益の増加により、経常利益、当期純利益とも33.3%の増益を見込んでおります。

(株式売却益は、当初見込み額60億円が80億円になる見込みです。)

通期業績につきましては、ほぼ前回発表予想の水準に落ち着く見込みです。

なお、売上高・営業利益・経常利益の状況につきましては以下のとおりです。

[売上高]

国産ナフサ価格が前回発表予想時に前提とした水準を下回る見通しのため、通期では小幅の減収を見込んでおりますが、中間期は、機能化学品事業における販売数量拡大等により小幅な増収の見込みです。

[営業利益・経常利益]

中間期は、石油化学事業においてポリオレフィンの交易条件改善の計画未達による減益要因があるものの、基礎化学品事業における合繊原料の交易条件の改善並びに機能化学品事業における電子情報材料及び精密化学品の販売数量拡大等により、増益を見込んでおります。

下期は、主に基礎化学品事業の事業環境を見直した結果減益を見込んでおり、通期ではほぼ前回発表予想の損益水準に落ち着く見込みです。

以上